

---

# 魔法科学の混在世界

カワチ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

魔法科学の混在世界

### 【Zコード】

N1493Z

### 【作者名】

カワチ

### 【あらすじ】

魔法が科学技術になった世界。

どこにでもいる普通の少年、黒沢竜也はある日、少女と出会い。

そして、いろいろな事件に巻き込まれる。

## 一話 少女との会話

「はあ～ なんで俺がこんなことしなくちゃならねえんだ」  
そう言いながら、少年は重そうなダンボールを車の中から家の中に運んでいる。

「仕方ないでしょ あなたしかいないんだから」

そう言いながら、隣の少女もダンボールを家中に運んでいる。  
なぜ、少年と少女がこんなことをやっているかといつと一時間前にわかのぼる。

少年は、ただ食材を買いに近くのスーパーへ向かってると、そのとき突然、

「ちよつと そこの君 手伝つてよ」

と、後ろから声が聞こえたが、気のせいだらうと思つて、先に行こうとする

「そこの君よ そこの黒い髪の君」

声のする方に振り向くと、長髪の少女が立っていた。

「はあ～ あんた 誰

「えつと 私は立花美佐」

「そうか それじゃあ」

「ちよつと なに立ち去ろうとしてるのよ」

「めんどうかいことはやらない主義なんだ」

「いいじやないの ダンボール運ぶだけだから」

「そんなの親にでもやつてもらえ」

「親は今いくつお願い 運ぶだけでいいから」

「はあ～ わかつたわかった これ以上話してたら遅くなる」

「ありがとう そういうえば名前は」

「俺か？ 俺は黒沢竜也だ」

ところが「手伝つ」となつた。

- 「はあ） なんでこんなに重いんだよ  
「だから 竜也に手伝つてもらつたんでしょ」  
「そういえば 確かこいつて空き家だったよな  
「そうよ 今日からこの家に住むことになったの  
「だから ダンボールがいっぱいあるのか とこりがなんで業者に  
頼まねえんだよ」  
「だつてお金かかるじゃない」  
「そんな理由かよ  
「そうよ なんか悪いわけ  
「はあ） べつに  
黙々とダンボールを運んでいくと、ついに最後の一個が見えてきた。  
(はあ) もう少しだ なんで買い物しに来ただけなのにダンボーリーを運んでんだろ)  
そう思い最後の一個を運び終えると、  
(はあ) 終わった これで スーパーに行ける  
そう思つていた竜也だが  
「手伝つてくれたお礼がしたいから ちょっと待つて  
そう言い家中に入つていつた。  
(俺は早くスーパーに行きたいだけなのに)  
そう思いながら空を見る。  
ほとんど日も落ちてすっかり暗くなろうとしていた。  
「はい これがお礼」  
渡されたのは、いろいろな魚が描かれた小さい箱だった。  
「この中に何が入つてんだよ」  
「ただのお菓子だけど」  
「お菓子って ダンボール運んだ人にあげるもんかよ  
「文句言わないでよ それしかないんだから」

「つたく わかつたよ 早くスーパーに行かねえと  
竜也は、じゃあなど言つとスーパーのほうへと向かつていつた。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1493z/>

---

魔法科学の混在世界

2011年12月5日09時51分発行